慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	近衛家凞及び近衛家久など近衛家歴代当主を中心とする、近世期堂上歌壇史の研究
Sub Title	Study of the history of the waka [31-syllable Japanese poems] written by Iehiro Konoe and Iehisa Konoe.
Author	緑川, 明憲(Midorikawa, Akinori)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
JaLC DOI	
Abstract	平成30年度は江戸時代中期の公卿・近衛家久の自筆和歌資料を調査するため、ほぼ一と月に一度の割合で公益財団法人陽明文庫（京都市右京区）へ伺った。家久の自筆和歌資料、すなわち『家久公御詠草』と呼ばれている資料群はこれまでほとんどが未調査の状態で伝来していると思われ、そのために全容が明確でなく、まず最初にどの程度存在するのかなど、およその全体像や点数を把握することにつとめた。結果、目録上では少なくとも1083点の存在が確認できた。次いで資料を1点ずつ撮影し、同時に翻刻も進めて行った（総歌数は未だ詳らかではない）。4月は5点、5月は9点、7月は8点、8月は9点、9月は2点、10月は4点、12月は2点、1月は2点の調査を済ませた。函架番号順にまとめられている資料群は、はじめのうちは百首和歌のように1点の資料で膨大な歌数を有しているものが多い。間違い等のないように、そして貴重な原典を傷つけることが決してないように、慎重に進めていった。本研究はまだ緒についたばかりである。 『家久公御詠草』は、これまで調査してきた『家凞公御詠草』とは異なり、点数も歌数も桁違いに多いと考えられるが、文庫より継続して調査させていただく御許可を頂戴しているので、次年度も当面は1点ずつ撮影と翻刻を進めて行くことになる。そして将来的には、昨年2月に上梓した拙著『近衛家凞公御詠草—翻刻と研究—』（古典ライブラリ－）の続編として、家久の詠草もまた公刊して、近世期における和歌研究の一端を担えるような内容の研究書の発兌を目指していきたいと考えている。 なお、本年度は陽明文庫での調査日に合致した日に限り、毎月1度開催される「茶湯研究会」（京都市）にも参加することができた。本研究会は現在、家凞の言行録である『槐記』の内容について議論、検討しているが、和歌に関わる記事も少なからず存在し、本研究を行う上で、極めて有益な見解を得られることが多々あった。 This research into the Waka [31-syllable Japanese poems] of Iehisa KONOE, who was one of the nobles of the Edo era, held monthly at the YOMEI Library in Kyoto, which is known as KONOE family's library and has preserved about 1083 original documents written by Iehisa. This included taking their photographs and reprinting them.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180312

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

2019年3月19日

研究代表者	所属	横浜初等部	職名	教諭	補助額	300 （A） 千円
	氏名	緑川 明憲	氏名（英語）	Akinori MIDORIKAWA		

研究課題（日本語）

近衛家凞及び近衛家久など近衛家歴代当主を中心とする、近世期堂上歌壇史の研究

研究課題（英訳）

Study of the history of the Waka[31-syllable Japanese poems] written by Iehiro KONOE and Iehisa KONOE.

１．研究成果実績の概要

平成30年度は江戸時代中期の公卿・近衛家久の自筆和歌資料を調査するため、ほぼ一と月に一度の割合で公益財団法人　陽明文庫（京都市右京区）へ伺った。家久の自筆和歌資料、すなわち『家久公御詠草』と呼ばれている資料群はこれまでほとんどが未調査の状態で伝来していると思われ、そのために全容が明確でなく、まず最初にどの程度存在するのかなど、およその全体像や点数を把握することにつとめた。結果、目録上では少なくとも1083点の存在が確認できた。次いで資料を1点ずつ撮影し、同時に翻刻も進めて行った（総歌数は未だ詳らかではない）。4月は5点、5月は9点、7月は8点、8月は9点、9月は2点、10月は4点、12月は2点、1月は2点の調査を済ませた。函架番号順にまとめられている資料群は、はじめのうちは百首和歌のように1点の資料で膨大な歌数を有しているものが多い。間違い等のないように、そして貴重な原典を傷つけることが決してないように、慎重に進めていった。本研究はまだ緒についたばかりである。

『家久公御詠草』は、これまで調査してきた『家凞公御詠草』とは異なり、点数も歌数も桁違いに多いと考えられるが、文庫より継続して調査させていただく御許可を頂戴しているので、次年度も当面は1点ずつ撮影と翻刻を進めて行くことになる。そして将来的には、昨年2月に上梓した拙著『近衛家凞公御詠草―翻刻と研究―』（古典ライブラリー）の続編として、家久の詠草もまた公刊して、近世期における和歌研究の一端を担えるような内容の研究書の発兌を目指していきたいと考えている。

なお、本年度は陽明文庫での調査日に合致した日に限り、毎月1度開催される「茶湯研究会」（京都市）にも参加することができた。本研究会は現在、家凞の言行録である『槐記』の内容について議論、検討しているが、和歌に関わる記事も少なからず存在し、本研究を行う上で、極めて有益な見解を得られることが多々あった。

２．研究成果実績の概要（英訳）

This research into the Waka[31-syllable Japanese poems] of Iehisa KONOE, who was one of the nobles of the Edo era, held monthly at the YOMEI Library in Kyoto, which is known as KONOE family's library and has preserved about 1083 original documents written by Iehisa. This included taking their photographs and reprinting them.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）